特集

地域の未来のために

脱炭素社会の実現に向けて

記録的な高温や豪雨などに形を変え、私たちの生活に深刻な影響を及ぼす地球温暖化。その影響や被害は、今後ますます大きくなっていくことが予測されています。
今号では、地球温暖化の原因とされる二酸化炭素など温室効果ガスの排出を実質ゼロとする「脱炭素社会」の実現に向けた市・事業者の取り組みや、私たちにできることを紹介します。いま、改めて地域の未来について考え、できることから実践してみませんか。

ごみの分別から脱炭素社会へつなげよう

■問合せ…生活環境課（☎025・526・5111）

毎日の暮らしの中で、必ず出る「ごみ」。上越市では、家庭から排出されるごみのうち、ペットボトルやプラ容器包装などの「資源物」を、中間処理を行った上で再資源化しています。私たち一人一人がごみと資源物とをきちんと分別して排出することで、ごみが資源として再利用されます。このことにより、新しく製品を作るよりもエネルギーが抑えられ、二酸化炭素の排出量を削減することができます。

ごみの適切な分別は、私たちができる身近な脱炭素化の取り組みの一つです。各世帯にお配りした「家庭ごみの分け方出し方ガイド」や、市公式LINEアカウントからも利用できる「ごみ分別辞典」を活用いただきながら、みんなで取り組んでいきましょう。

生活環境課
木村 勇樹 主任

市ホームページ
ごみ分別ガイド

市公式LINE
ごみ分別辞典

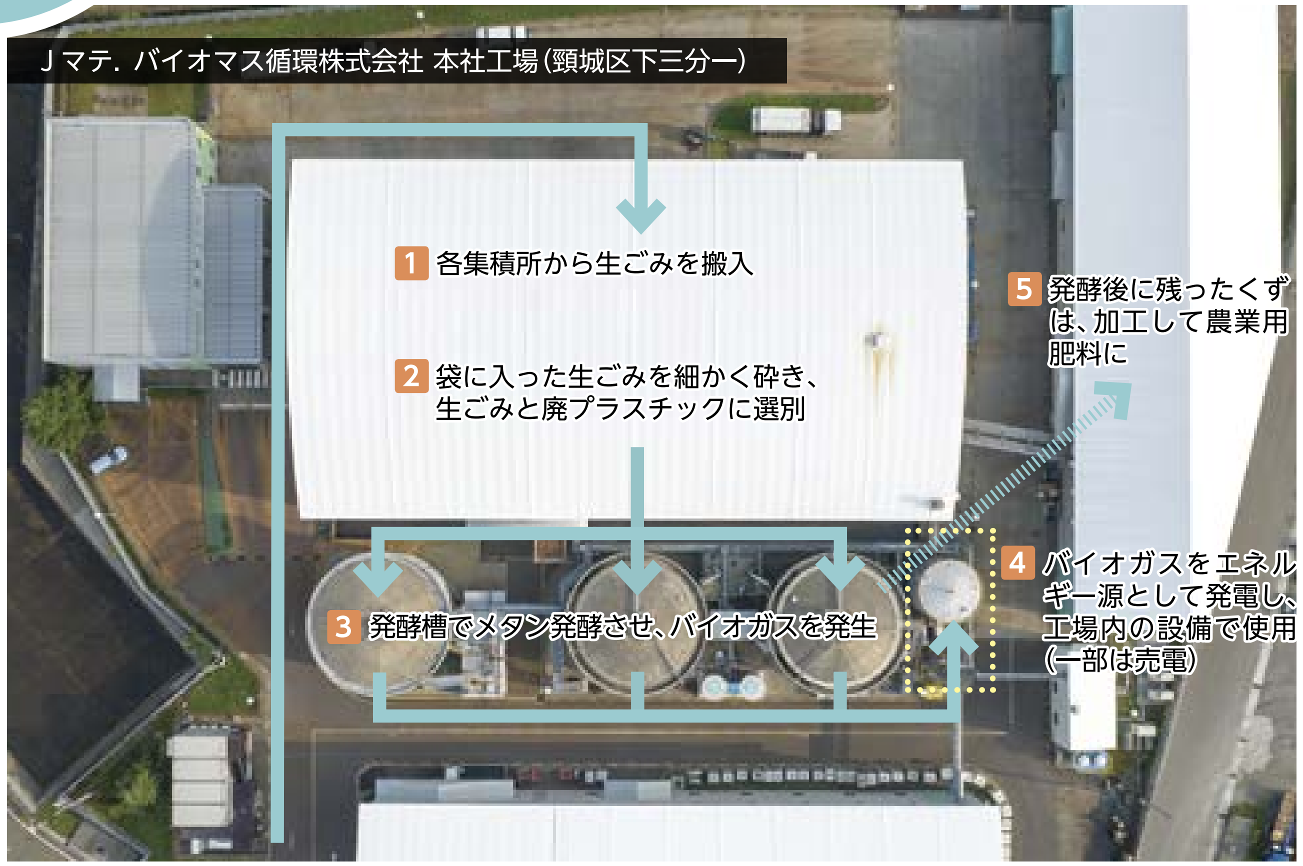
市内の主な家庭ごみの年間排出量（令和４年度）と処理方法

区　分		数量（トン）	処理方法
燃やせるごみ		2万5,077	クリーンセンターで焼却。焼却灰は最終処分場に埋め立てるほか、セメントなどにリサイクル
燃やせないごみ		2,318	細かく砕き、金属類は建築用の鉄筋などとして製品化。そのほかは最終処分場に埋め立て など
主な資源物	ペットボトル	590	繊維（衣服の原料）やペットボトルなどにリサイクル
	プラ容器包装	2,362	プラスチック製品などにリサイクル
	新聞、雑誌などの紙類	5,924	工場でそれぞれ圧縮・梱包後、リサイクル
	生ごみ	4,415	細菌を使って発酵させ、発生したガスをエネルギーとして処理工場の設備を稼働。残ったくずは農業用肥料に

次ページで生ごみ処理の流れを紹介します

津有地区公民館事業参加者の皆さんと生ごみ処理工場を見学してきました

生ごみが『エネルギー』に変わるまで



メタン発酵で生ごみからガスを

Ｊマテ．バイオマス循環株式会社

当社では、市内の各家庭から排出される全ての生ごみを受け入れ、処理しています。持ち込まれた生ごみは、細かく砕き、混入したプラスチックを取り除いた後、水と薬剤を混ぜます。次に、36℃から39℃に保たれた発酵槽の中で細菌を使って約20日間発酵させ、バイオガスを発生させます。発酵槽は、ちょうど人間の胃や腸のようなものですね。

発生したバイオガスは、設備を動かすための発電機の燃料のほか、発酵槽内を一定の温度に保つためのボイラーの燃料としても使っています。ごみとして出されたものを資源として有効利用することで、二酸化炭素の排出量削減につながっています。

適切な分別で生ごみをエネルギーに

生ごみの中に燃やせるごみが混ざると、発酵がうまく進まず、エネルギーとなるガスの発生量が減ってしまいます。反対に、燃やせるごみの中に生ごみが混ざれば、焼却する際、水分を飛ばすために余計なエネルギーが必要になりますよね。生ごみを資源として有効利用し、暮らしを支えるエネルギーとして上手に循環させていくため、ごみの適切な分別に引き続きご協力をお願いします。

当社では、学校や地域の皆さんによる工場見学を随時受け入れ、ごみの資源化について説明しています。お気軽にお問い合わせください。

（☎025・539・1733）

❶施設を案内してくれたＪマテ.バイオマス循環株式会社 代表取締役の青木健さん（右）と取締役工場長の稲葉稔さん ❷稲葉工場長の説明を聞く津有地区公民館事業参加者の皆さん ❸参加者の松矢道夫さん（左）と服部香代子さん